



Point

追肥による安定収量の確保と 病気対策に努めましょう！



男鹿地区営農センター 太田 雅樹

今後の追肥について

これから入る幼穂形成期や減数分裂期は、米の収量に関わるため、葉色の維持が重要となる時期になります。ただし、倒伏に影響を及ぼす節間伸長期でもあるため、各自の生育状況を確認しながら葉色の維持に努めましょう。



● 肥料の使用例

幼穂形成期の場合(あきたこまちで7月15日頃)

肥料名	使用量
NK23号	4~5kg/10a
ニュー穂肥34号	7kg/10a
NK2号	7~8kg/10a

減数分裂期の場合(あきたこまちで7月25日頃)

肥料名	使用量
NK23号	6~7kg/10a
ニュー穂肥34号	10kg/10a

いもち病対策

葉色の濃いところや風通しの悪いところで発病しやすいため、注意しましょう。

● 対策薬剤

使用時期	薬剤名	使用量
出穂前	ブラシン粉剤	3~4kg/10a
	コラトップ粒剤	4kg/10a ※出穂15~7日前に散布
出穂後	ラブサイド粉剤	3~4kg/10a
	ラブサイドフロアブル	1,000倍で100ℓ/10a

紋枯れ病対策

茎数過剰や葉色の濃いところ、昨年発生が確認された圃場で発生しやすいため、注意してください。

● 対策薬剤

薬剤名	使用量
モンセレン粉剤	3~4kg/10a ※茎葉散布、収穫21日前まで散布

蛾(マイマイガ)の幼虫による食害が確認されています

管内各地で蛾(マイマイガ)の幼虫の大量発生が見られ、天王地区では水稲への食害も確認されています。今後はサナギ、成虫となるため幼虫による被害は落ち着く見込みですが、特に山林に近い圃場では、引き続き注意してください。